

2001年 大会記録

国際

◇ショープ女子国際大会（1月20～21日、フランス・トゥルクァン）

《シニア・ジュニア》▼46kg級 船津愛里（埼玉・淑徳与野高）＝5位、高田理沙（京都・網野高）＝予選リーグ敗退、▼51kg級 森八千代（神奈川・向上高）＝予選リーグ敗退、森藤真希（岡山・倉敷高）＝予選リーグ敗退、池田弘美（京都・網野高）＝予選リーグ敗退、石井千恵（長野・北佐久農高）＝予選リーグ敗退、深沢真理（大阪・堺女高）＝予選リーグ敗退、服部担子（愛知・中京女大付高）＝8位、▼56kg級 小島智絵（岩手・宮古商高）＝予選リーグ敗退、長野美香（岐阜・岐阜工高）＝予選リーグ敗退、志賀静子（群馬・富岡実高）＝予選リーグ敗退、関根ゆう（埼玉・埼玉栄高）＝予選リーグ敗退、▼62kg級 森直子（東京・国学院久我山高）＝予選リーグ敗退、▼75kg級 村島文子（三重・尾鷲高）＝6位

《カデット》▼43kg級 本橋裕子（静岡・清水南高）＝2位、船津友里（埼玉・山村国際高）＝優勝、▼52kg級 山田広子（東京・安倍学院高）＝6位、▼56kg級 下国美穂（埼玉・埼玉栄高）＝4位、▼60kg級 大田栄里（三重・鳥羽ジュニア）＝8位、比留間佳江（埼玉・埼玉栄高）＝優勝、▼65kg級 宇野祥弥（三重・四日市ジュニア）＝優勝、

◇グランマ国際大会＝男子グレコローマン（2月20～21日、キューバ・ハバナ）

▼54kg級 村田知也（滋賀・日野ク）＝負傷棄権、安原隆（自衛隊）＝5位、▼58kg級 笹本睦（総合警備保障）＝2位、富谷光雄（自衛隊）＝一失、▼63kg級 飯室雅規（自衛隊）＝3位、▼69kg級 永田克彦（警視庁）＝3位、斉藤柔（自衛隊）＝3位、▼76kg級 菅太一（日大）＝二失、▼85kg級 松本慎吾（一宮運輸）＝2位、谷口周平（自衛隊）＝5位▼97kg級 森角裕介（日体大）＝3位、▼130kg級 鈴木克彰（警視庁）＝一失

◇セーロ・ペラド国際大会＝男子フリースタイル（2月24～25日、キューバ・ハバナ）

▼54kg級 田南部力（警視庁）＝優勝、▼58kg級 関川博紀（新潟県協会）＝4位、▼63kg級 金渕清文（国土館大）＝7位、▼69kg級 伊東克佳（河北建設）＝5位、▼76kg級 小幡邦彦（山梨学院大）＝二失、▼85kg級 川合達夫（群馬・板倉高教）＝5位、▼97kg級 小平清貴（山梨学院大）＝5位、▼130級 沢田直樹（拓大）＝7位

◇ウズベキスタン・カップ（3月6日、ウズベキスタン・タシュケント）

《男子フリースタイル》▼54kg級 山本篤（山梨学院大）＝17位、▼58kg級 松尾大士

(日体大) = 9位、▼63kg級 池松和彦(日体大) = 6位、▼69kg級 小路伸亮(拓大) = 11位

《男子グレコローマン》▼54kg級 森岡則靖(拓大) = 14位、▼63kg級 柳川育廣(日体大) = 17位、▼69kg級 佐野裕樹(日体大) = 6位、▼97kg級 津田弘二(青山学院大) = 10位

◇東アジア大会(5月21~25日、大阪・門真市なみはやドーム)

《男子フリースタイル》▼54kg級 田南部力(警視庁) = 3位、▼58kg級 関川博紀(新潟県協会) = 2位、▼63kg級 金淵清文(国士大助手) = 3位、▼69kg級 天谷満博(茨城・土浦日大高教) = 2位、▼76kg級 小幡邦彦(山梨学院大) = 3位、▼85kg級 川合達夫(群馬・板倉高教) = 優勝、▼97kg級 小平清貴(警視庁) = 2位、▼130kg級 矢野通(新日本プロレス職) = 5位

《男子グレコローマン》▼54kg級 村田知也(滋賀・日野ク) = 3位、▼58kg級 笹本睦(総合警備保障) = 2位、▼63kg級 飯室雅規(自衛隊) = 4位、▼69kg級 永田克彦(新日本プロレス職) = 優勝、▼76kg級 菅太一(日大) = 2位、▼85kg級 松本慎吾(一宮運輸) = 優勝、▼97kg級 森角裕介(日体大) = 4位、▼130kg級 鈴木克彰(警視庁) = 3位

《女子》▼46kg級 清水美里(ジャパンビバレッジ) = 優勝、▼51kg級 坂本日登美(中京女大) = 優勝、▼56kg級 山本聖子(日大) = 優勝、▼62kg級 岩間怜那(中京女大) = 優勝、▼68kg級 宮本知恵(中京女大ク) = 2位、▼75kg級 浜口京子(浜口ジム) = 優勝

◇アジア選手権(6月5~10日、モンゴル・ウランバートル)

《男子フリースタイル》▼54kg級 長尾勇氣(日体大助手) = 7位、▼58kg級 平井進悟(総合警備保障) = 7位、▼63kg級 金淵清文(国士大助手) = 4位、▼69kg級 伊東克佳(河北建設) = 7位、▼76kg級 小幡邦彦(山梨学院大) = 3位、▼85kg級 横山武典(国士大助手) = 5位、▼97kg級 小平清貴(警視庁) = 5位、▼130kg級 矢野通(新日本プロレス職) = 7位、

《男子グレコローマン》▼54kg級 安原隆(自衛隊) = 4位、▼58kg級 富谷光雄(自衛隊) = 6位、▼63kg級 西田哲人(自衛隊) = 6位、▼69kg級 斎藤柔(自衛隊) = 5位、▼76kg級 菅太一(日大) = 優勝、▼85kg級 松本慎吾(一宮運輸) = 2位、▼97kg級 森角裕介(日体大) = 5位、▼130kg級 出場なし

《女子》▼46kg級 織田智絵（東洋大）＝優勝、▼51kg級 伊調千春（東洋大）＝優勝、▼56kg級 清水真理子（群馬・板倉高教）＝3位、▼62kg級 正田絢子（東洋大）＝優勝、▼68kg級 斉藤紀江（ジャパンビバレッジ）＝5位、▼75kg級 菅原美々（国士大）＝3位

◇アジア・カデット選手権（7月4～6日、イラン・テヘラン）

《男子フリースタイル》▼42kg級 渡辺大（千葉・二川中）＝予選リーグ敗退、▼46kg級 長尾武沙士（大阪・近大付高）＝予選リーグ敗退、▼50kg級 山口巨（京都・立命館宇治高）＝予選リーグ敗退、▼54kg級 湯元健一（和歌山・和歌山工高）＝4位、▼58kg級 岩井康輔（京都・網野高）＝予選リーグ敗退、▼63kg級 鈴木広明（鹿児島・鹿屋中央高）＝棄権、▼69kg級 谷津芳伯（群馬・館林商工高）＝予選リーグ敗退、▼76kg級 松本真也（京都・網野高）＝優勝、▼85kg級 磯川孝生（大分・日本文理大付高）＝予選リーグ敗退、▼100kg級 加賀正祥（東京・自由ヶ丘学園高）＝予選リーグ敗退

《男子グレコローマン》▼42kg級 大場真治（長崎・島原クラブ）＝予選リーグ敗退、▼46kg級 上田吉輝（和歌山・和歌山北高）＝4位、▼50kg級 西森啓太（奈良・広陵高）＝予選リーグ敗退、▼54kg級 西尾直之（大阪・大阪市立高）＝3位、▼58kg級 松原祐紀（香川・多度津工高）＝予選リーグ敗退、▼63kg級 竹内誠（滋賀・日野高）＝予選リーグ敗退、▼69kg級 神野伸二（愛媛・北条高）＝4位、▼76kg級 渡辺茂雅（愛媛・今治工高）＝4位、▼85kg級 子本真照（熊本・玉名工高）＝予選リーグ敗退、▼100kg級 秋山智史（静岡・沼津学園高）＝予選リーグ敗退

◇ヤリギン国際大会＝男子フリースタイル（7月20～22日、ロシア・クラスノヤルスク）

▼54kg級 長尾勇氣（日体大助手）＝予選リーグ敗退、松永共広（日体大）＝予選リーグ敗退、▼58kg級 関川博紀（新潟県協会）＝予選リーグ敗退、太田亮介（警視庁）＝予選リーグ敗退、▼63kg級 池松和彦（日体大）＝予選リーグ敗退、金淵清文（国士大助手）＝7位、▼69kg級 宮田和幸（クリナップ）＝予選リーグ敗退、▼76kg級 小幡邦彦（山梨学院大）＝5位、▼97kg級 小平清貴（警視庁）＝予選リーグ敗退、▼130kg級 藤田尚志（山梨学院大）＝予選リーグ敗退

◇ブダエフ国際大会＝男子フリースタイル（7月27～29日、ロシア・ウランウデ）

▼54kg級 長尾勇氣（日体大助手）＝予選リーグ敗退、松永共広（日体大）＝3位、▼58kg級 関川博紀（新潟県協会）＝5位、太田亮介（警視庁）＝予選リーグ敗退、▼63kg級 池松和彦（日体大）＝5位、金淵清文（国士大助手）＝4位、▼69kg級 宮田和幸（クリナ

ップ) = 2位、▼76kg級 小幡邦彦(山梨学院大) = 優勝、▼97kg級 小平清貴(警視庁) = 3位、▼130kg級 藤田尚志(山梨学院大) = 予選リーグ敗退

◇世界ジュニア選手権(8月9～13日、ウズベキスタン・タシュケント)

《男子フリースタイル》▼50kg級 鈴木一美(神奈川大) = 18位、▼54kg級 清水聖志人(日体大) = 5位、▼58kg級 菅原剛志(日体大) = 8位、▼63kg級 川路幸祐(東洋大) = 12位、▼69kg級 長島正彦(青山学院大) = 14位、▼76kg級 長島和彦(早大) = 6位、▼85kg級 平沢光秀(専大) = 14位、▼97kg級 裾分隆仁(南九州大) = 10位、▼130kg級 沢田直樹(拓大) = 19位

《男子グレコローマン》▼50kg級 高坂拓也(日大) = 16位、▼54kg級 大津卓睦(中大) = 10位、▼58kg級 村上文清(拓大) = 22位、▼63kg級 船場建徳(南九州大) = 13位、▼69kg級 子川亮介(日体大) = 24位、▼76kg級 高橋裕二郎(日体大) = 17位、▼85kg級 石沢幸祐(新潟・北越高) = 26位、▼97kg級 津田弘二(青山学院大) = 20位、▼130kg級 山内翼(山梨学院大) = 15位

◇ピトラスンスキ国際大会=男子グレコローマン(8月10～12日、ポーランド・ヴロツラフ)

▼54kg級 村田知也(滋賀・日野ク) = 8位、▼58kg級 笹本睦(総合警備保障) = 10位、富谷光雄(自衛隊) = 7位、▼63kg級 飯室雅規(自衛隊) = 13位、平井満生(総合警備保障) = 10位、▼69kg級 永田克彦(新日本プロレス職) = 11位、▼76kg級 菅太一(日大) = 20位、▼85kg級 松本慎吾(一宮運輸) = 16位、▼97kg級 森角裕介(日体大) = 19位

◇世界ジュニア選手権=女子(8月17～19日、スイス・マルティニー)

▼43kg級 世良桃子(福岡大) = 優勝、▼46kg級 船津愛里(東洋大) = 3位、▼50kg級 伊調千春(東洋大) = 優勝、▼54kg級 服部担子(中京女大) = 7位、▼58kg級 吉田沙保里(中京女大) = 優勝、▼63kg級 正田絢子(東洋大) = 6位、▼68kg級 菅原美々(国土大) = 3位、▼75kg級 久保千明(中京女大) = 7位

◇ワールドカップ=女子(11月3～4日、フランス・パリ)

優勝(6戦全勝)

- 1回戦 日本○ [5-1] ●フランス
- 2回戦 日本○ [3-3] ●中国
- 3回戦 日本○ [5-1] ●チュニジア
- 4回戦 日本○ [4-2] ●カナダ

5回戦 日本○ [5-1] ●米国

6回戦 日本○ [4-2] ●ロシア

《個人順位》▼46kg級 清水美里（ジャパンビバレッジ）=2位、▼51kg級 坂本日登美（中京女大）=優勝、▼56kg級 山本聖子（日大）=優勝、▼62kg級 岩間怜那（中京女大）=優勝、▼68kg級 菅原美々（国士大）=棄権、▼75kg級 浜口京子（浜口ジム）=優勝

◇クランスマン国際大会（11月9～10日、カナダ・エドモントン）

《男子フリースタイル》▼54kg級 高橋利典（総合警備保障）=2位、▼58kg級 平井進悟（総合警備保障）=優勝、▼58kg級 川元久志（北海高校教）=2位、▼63kg級 湊純（自衛隊）=6位、▼76kg級 鈴木豊（自衛隊）=5位、▼85kg級 浜中和宏（高田道場）=2位、▼97kg級 角川康成（ロジテム）=7位、▼130kg級 諏訪間幸平（クリナップ）=4位

《女子》▼女子46kg級 吉村祥子（TBC）=優勝

◇世界選手権=男子フリースタイル、女子（11月22～25日、ブルガリア・ソフィア）

《男子フリースタイル》▼54kg級 長尾勇氣（日体大助手）=15位、▼58kg級 関川博紀（新潟・三条工高教）=16位、▼63kg級 池松和彦（日体大）=23位、▼69kg級 宮田和幸（クリナップ）=17位、▼76kg級 小幡邦彦（山梨学院大）=29位、▼85kg級 川合達夫（群馬・板倉高教）=15位、▼97kg級 小平清貴（警視庁）=15位、▼130kg級 藤田尚志（山梨学院大）=17位

《女子》▼46kg級 清水美里（ジャパンビバレッジ）=5位、▼51kg級 坂本日登美（中京女大）=優勝、▼56kg級 山本聖子（日大）=優勝、▼62kg級 岩間怜那（中京女大）=14位、▼68kg級 斉藤紀江（ジャパンビバレッジ）=12位、▼75kg級 浜口京子（浜口ジム）=4位

◇ヘンリ・デグレーヌ国際大会=男子グレコローマン（11月24～25日、フランス・ニース）

▼58kg級 吉田誠治（神奈川ク）=4位、▼58kg級 清藤利幸（自衛隊）=3位、▼69kg級 小川明彦（自衛隊）=3位、▼76kg級 中村征司（ヤマキーエンター）=4位、▼85kg級 木下英規（自衛隊）=二失、▼85kg級 中西宣文（オファー）=10位、▼97kg級 太田宣明（自衛隊）=2位

◇世界選手権＝男子グレコローマン（12月6～9日、ギリシア・パトラス）

▼54kg級 村田知也（滋賀・日野ク）＝9位、▼58kg級 笹本睦（総合警備保障）＝7位、▼63kg級 飯室雅規（自衛隊）＝32位、▼69kg級 永田克彦（新日本プロレス職）＝13位、▼76kg級 菅太一（日大）＝22位、▼85kg級 松本真吾（一宮運輸）＝13位、▼97kg級 森角裕介（日体大）＝26位、▼130kg級 ＝出場なし

国内

◇全国高校選抜大会（3月27～29日、新潟・新潟市体育館）

《学校対抗戦》[1] 青森・八戸工大一（初）、[2] 静岡・沼津学園、[3] 鹿児島・鹿屋中央、京都・立命館宇治

《個人戦優勝者》▼50kg級 長谷川恒平（静岡・焼津中央）、▼54kg級 足立孝司（岐阜・岐阜工）、▼58kg級 岩井康輔（京都・網野）、▼63kg級 鈴木崇之（京都・立命館宇治）、▼69kg級 松井翔（京都・立命館宇治）、▼76kg級 松本真也（京都・網野）、▼85kg級 神野圭一（京都・立命館宇治）、▼130kg級 高尾誠（熊本・玉名工）

◇ジャパングイーンズカップ（4月8日、茨城・霞ヶ浦体育文化センター）

《優勝者》▼46kg級 清水美里（ジャパナビバレッジ）、▼51kg級 坂本日登美（中京女大）、▼56kg級 伊調馨（中京女大）、▼62kg級 岩間怜那（中京女大）、▼68kg級 坂本襟（中京女大）、▼75kg級 浜口京子（浜口ジム）

◇JOC杯ジュニアオリンピック（4月28～29日、神奈川・横浜文化体育館）

《男子ジュニア・フリースタイル優勝者》▼50kg級鈴木一美（神奈川大）、▼54kg級清水聖志人（日体大）、▼58kg級菅原剛志（日体大）、▼63kg級川路幸祐（東洋大）、▼69kg級長島正彦（青山学院大）、▼76kg級長島和彦（早大）、▼85kg級平沢光秀（専大）、▼97kg級裾分隆仁（南九州大）、▼130kg級沢田直樹（拓大）、

《男子ジュニア・グレコローマン優勝者》▼50kg級高坂拓也（日大）、▼54kg級大津卓睦（中大）、▼58kg級村上文清（拓大）、▼63kg級船場建徳（南九州大）、▼69kg級子川亮介（日体大）、▼76kg級高橋裕二郎（日体大）、▼85kg級花田信秀（国士大）、▼97kg級津田弘二（青山学院大）、▼130kg級山内翼（山梨学院大）

《男子カデット・フリースタイル優勝者》▼42kg級 渡辺大（千葉・二川中）、▼46kg級 長尾武沙士（大阪・近大付高）、▼50kg級 山口巨（京都・立命館宇治高）、▼54kg級 湯元健一（和歌山・和歌山工高）、▼58kg級 岩井康輔（京都・網野高）、▼63kg級

鈴木広明（鹿児島・鹿屋中央高）、▼69kg級 谷津芳伯（群馬・館林商工高）、▼76kg級
松本真也（京都・網野高）、▼85kg級 磯川孝生（大分・日本文理大付高）、▼100kg級
加賀正祥（東京・自由ヶ丘学園高）

《男子カデット・グレコローマン優勝者》▼42kg級 大場真治（長崎・島原スクール）、
▼46kg級 上田吉輝（和歌山・和歌山北高）、▼50kg級 西森啓太（奈良・広陵高）、▼54kg
級 西尾直之（大阪・大阪市立高）、▼58kg級 松原祐紀（香川・多度津工高）、▼63kg
級 竹内誠（滋賀・日野高）、▼69kg級 神野伸二（愛媛・北条高）、▼76kg級 渡辺茂
雅（愛媛・今治工高）、▼85kg級 子本真照（熊本・玉名工高）、▼100kg級 秋山智史
（静岡・沼津学園高）

《女子ジュニア優勝者》▼43kg級世良桃子（福岡大）、▼46kg級船津愛里（東洋大）、
▼50kg級伊調千春（東洋大）、▼54kg級服部担子（中京女大）、▼58kg級吉田沙保里（中
京女大）、▼63kg級正田絢子（東洋大）、▼68kg級菅原美々（国士大）、▼75kg級村島文
子（中京女大）

《女子カデット優勝者》▼38kg級 谷田愛実（静岡・裾野西中）、▼40kg級 中浜愛（三
重・鳥羽東中）、▼43kg級 船津友里（東洋大倶楽部）、▼46kg級 前原愛（三重・亀山
中）、▼49kg級 鈴木七恵（栃木・雀宮中）、▼52kg級 蓮沼美幸（千葉・関宿高）、▼56kg
級 西牧未央（大阪・関大一中）、▼60kg級 比留間佳江（埼玉・埼玉栄高）、▼65kg級
宇野祥弥（三重・四日市四郷高）、▼70kg級 寺元梓美（愛知・中京女大付高）

◇東日本学生リーグ戦（5月15～18日、東京・駒沢体育館）

《順位》[1] 山梨学院大（2年連続2度目）、[2] 拓大、[3] 日体大、[4] 日大、[5]
専大、[6] 大東大、[7] 国士大、[8] 中大、[9] 東洋大、[10] 青山学院大、[11]
早大、[12] 群馬大、[13] 東農大、[14] 法大、[15] 明大、[16] 東北学院大

◇西日本学生春季リーグ戦（5月12～13日、大阪・大阪府立体育会館第2

競技場）

《順位》[1] 福岡大（2季連続21度目）、[2] 立命館大、[3] 徳山大、[4] 同志社
大、[5] 桃山学院大、[6] 徳山大、[7] 近大、[8] 南九州大

◇全国中学生選手権（6月～10日、茨城・茨城県立スポーツセンター）

《男子優勝者》▼35kg級 長江翔太（三重・一志）、▼38kg級 中井伸一（千葉・松戸
六）、▼42kg級 小田裕之（三重・久居）、▼47kg級 青木強（茨城・牛久南）、▼53kg
級 大沢茂樹（茨城・牛久南）、▼59kg級 安沢薫（東京・武蔵工大付）、▼66kg級 兼

田崇行（青森・八戸三）、▼73kg級 藤原淳（愛媛・松山南二）、▼85kg級 渡辺達也（愛媛・桜井）

《女子優勝者》▼40kg級 清水明子（山梨・上野原）、▼44kg級 馬越真弓（大阪・豊津西）、▼48kg級 前原愛（三重・亀山）、▼52kg級 鈴木七恵（栃木・雀宮）、▼57kg級 西牧未央（大阪・関大一）、▼62kg級 中田絵理子（京都・西宇治）

◇東日本学生春季新人戦（6月21～22日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼54kg級 清水聖志人（日体大）、▼58kg級 藤本健太（日大）、▼63kg級 岩山元彦（専大）、▼69kg級 山口徹馬（専大）、▼76kg級 山本悟（日体大）、▼85kg級 藤岡裕士（山梨学院大）、▼97kg級 幸野亨（大東大）、▼130kg級 田中章仁（専大）、

《男子グレコローマン優勝者》▼54kg級 清水聖志人（日体大）、▼58kg級 村上文清（拓大）、▼63kg級 山本真司（日体大）、▼69kg級 子川亮介（日体大）、▼76kg級 山本悟（日体大）、▼85kg級 田守竹夫（山梨学院大）、▼97kg級 中本将生（国士舘大）、▼130kg級 沢田直樹（拓大）、

◇明治乳業杯全日本選抜選手権（6月28～30日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼54kg級 長尾勇氣（日体大助）、▼58kg級 関川博紀（新潟・三条工高教）、▼63kg級 池松和彦（日体大）、▼69kg級 宮田和幸（クリナップ）、▼76kg級 小幡邦彦（山梨学院大）、▼85kg級 川合達夫（群馬・板倉高教）、▼97kg級 小平清貴（警視庁）、▼130kg級 藤田尚志（山梨学院大）

《男子グレコローマン優勝者》▼54kg級 豊田雅俊（警視庁）、▼58kg級 笹本睦（総合警備保障）、▼63kg級 平井満生（総合警備保障）、▼69kg級 永田克彦（新日本プロレス職）、▼76kg級 菅太一（日大）、▼85kg級 松本慎吾（一宮運輸）、▼97kg級 森角祐介（日体大）、▼130kg級 浜上稔（宮崎・宮崎農高教）

《プレーオフ勝者》▼フリースタイル 54kg級 長尾勇氣（日体大助手）、▼同 63kg級 池松和彦（日体大）、▼グレコローマン 54kg級 村田知也（滋賀・日野ク）、▼同 63kg級 飯室雅規（自衛隊）、▼同 130kg級 浜上稔（宮崎・宮崎農高教）

◇西日本学生選手権（7月6～8日、大阪・堺市金岡公園体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼54kg級 森山振一郎（福岡大）、▼58kg級 谷岡泰幸（徳山大）、▼63kg級 森岡寛至（同志社大）、▼69kg級 吉眞恒治（立命館大）、▼76kg級

級 岩佐康博（徳山大）、▼85kg級 仙波勝敏（立命館大）、▼97kg級 裾分隆仁（南九州大）、▼130kg級 西山知孝（福岡大）

《男子グレコローマン優勝者》▼54kg級 森山振一郎（福岡大）▼58kg級 谷岡泰幸（徳山大）、▼63kg級 水口貴之（立命館大）、▼69kg級 藤村義（徳山大）、▼76kg級 佐藤健（徳山大）、▼85kg級 小川純一（桃山学院大）、▼97kg級 吉田光志（福岡大）、▼130kg級 西山知孝（福岡大）

◇全日本社会人選手権（7月14～15日、東京・駒沢体育館）

《団体戦優勝チーム》▼実業団対抗 総合警備保障、▼クラブ対抗 倉敷クラブ

《男子フリースタイル優勝者》▼54kg級 高橋利典（総合警備保障）、▼58kg級 平井進悟（総合警備保障）、▼63kg級 山懸健二（倉敷ク）、▼69kg級 栗尾直樹（東北電子工高ク）、▼76kg級 小柴健二（佐賀・鹿島実高教）、▼85kg級 浜中和宏（高田道場）、▼97kg級 角川康成（ロジウム）、▼130kg級 吉田清太郎（秋田市役所）

《男子グレコローマン優勝者》▼54kg級 吉田誠治（神奈川ク）、▼58kg級 清藤利幸（自衛隊）、▼63kg級 笹本睦（総合警備保障）、▼69kg級 小川明彦（自衛隊）、▼76kg級 中村征司（宮城電子工ク）、▼85kg級 木下英規（自衛隊）、▼97kg級 太田宣明（自衛隊）、▼130kg級 室谷正憲（和歌山ク）

《女子優勝者》▼46kg級 吉村祥子（TBC東京ビューティセンター）、▼51kg級 清水美里（ジャパンビバレッジ）、▼56kg級 篠村敦子（福岡市スポーツ振興事業団）、▼62kg級 鈴木亜里（ジャパンビバレッジ）、▼68kg級 斉藤紀江（ジャパンビバレッジ）、▼75kg級 富岡多恵子（クラステホリス）

◇インターハイ（8月1～4日、熊本・玉名市総合体育館）

《学校対抗戦》[1] 青森・八戸工大一（初）、[2] 京都・立命館宇治、[3] 鹿児島・鹿屋中央、茨城・霞ヶ浦

《個人戦優勝者》▼50kg級 湯元進一（和歌山・和歌山工）、▼54kg級 足立孝司（岐阜・岐阜工）、▼58kg級 小島豪臣（青森・八戸工大一）、▼63kg級 鈴木崇之（京都・立命館宇治）、▼69kg級 松井翔（京都・立命館宇治）、▼76kg級 松本真也（京都・網野）、▼85kg級 磯川孝生（大分・日本文理大付）、▼130kg級 高尾誠（熊本・玉名工）

◇全国高校生グレコローマン選手権（8月17～19日、群馬・館林城沼総合体育館）

《優勝者》▼50kg級 長谷川恒平（静岡・焼津中央）、▼54kg級 端地順平（和歌山・新宮）、▼58kg級 内田達治（長野・上田西）、▼63kg級 江藤紀友（福岡・三井）、▼69kg級 神野伸二（愛媛・北条）、▼76kg級 有働信也（熊本・玉名工）、▼85kg級 曾我部偉（徳島・三好）、▼97kg級 米山祥嗣（群馬・館林）、▼120kg級 高尾誠（熊本・玉名工）

◇全国高校女子選手権（8月19日、岩手・宮古市総合体育館）

《優勝者》▼43kg級 竹中奈々（京都・網野）、▼46kg級 平岡深雪（埼玉・埼玉栄）、▼50kg級 池田弘美（京都・網野）、▼54kg級 松川知華子（富山・富山一）、▼58kg級 比留間佳江（埼玉・埼玉栄）、▼63kg級 伊調馨（愛知・中京女大附）、▼68kg級 寺本梓美（愛知・中京女大附）、▼75kg級 アイリス・クロス（カナダ）

◇全国中学女子選手権（8月19日、岩手・宮古市総合体育館）

《優勝者》▼38kg級 谷田愛実（静岡・裾野西）、▼40kg級 奥谷沙生理（青森・青森北）、▼43kg級 野崎美緒（・三本木）、▼46kg級 前原愛（三重・亀山）、▼49kg級 山内佳子（青森・筒井）、▼52kg級 鈴木七恵（栃木・雀宮）、▼56kg級 西牧未央（大阪・関西一）、▼60kg=出場なし、▼65kg=出場なし、▼70kg級 ヤマンサ・マシューズ（カナダ）

◇全日本学生選手権（8月28～31日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼54kg級 松永共広（日体大）、▼58kg級 松尾大士（日体大）、▼63kg級 池松和彦（日体大）、▼69kg級 長島正彦（青山学院大）、▼76kg級 長島和幸（早大）、▼85kg級 小幡邦彦（山梨学院大）、▼97kg級 藤田尚志（山梨学院大）、▼130kg級 伊東勉（拓大）

《男子グレコローマン優勝者》▼54kg級 森岡則晴（拓大）、▼58kg級 村上文清（拓大）、▼63kg級 柳川育廣（日体大）、▼69kg級 佐野裕樹（日体大）、▼76kg級 菅太一（日大）、▼85kg級 森角祐介（日体大）、▼97kg級 加藤賢三（大東大）、▼130kg級 沢田直樹（拓大）

《女子優勝者》▼46kg級 織田智絵（東洋大）、▼51kg級 伊調千春（東洋大）、▼56kg級 山本聖子（日大）、▼62kg級 岩間怜那（中京女大）、▼68kg級 坂本襟（中京女大）、▼75kg級 村島文子（中京女大）

◇西日本学生新人戦（9月29～30日、大阪・堺市立金岡公園体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼54kg級 菅沼翔吾（関西学院大）、▼58kg級 橋井巧

佑（立命館大）、▼63kg級 船場建徳（南九州大）、▼69kg級 吉眞恒治（立命館大）、▼76kg級 長谷川智人（立命館大）、▼85kg級 今井徳彦（立命館大）、▼97kg級 吉田光志（福岡大）、▼130kg級 裾分隆仁（南九州大）

《男子グレコローマン優勝者》▼54kg級 平田裕（近大）、▼58kg級 橋井巧佑（立命館大）、▼63kg級 西田順平（同志社大）、▼69kg級 吉眞恒治（立命館大）、▼76kg級 武内和人（桃山学院大）、▼85kg級 小山裕之（同志社大）、▼97kg級 大西孝治（東亜大）、▼130kg級 裾分隆仁（南九州大）

◇全日本学生王座決定戦（10月5～6日、東京・駒沢体育館）=団体戦の勝ち点方式

《順位》[1] 日体大（2年連続22度目）、[2] 山梨学院大、[3] 拓大

◇国民体育大会（10月14～17日、宮城・宮城産業交流センター）

《成年フリースタイル優勝者》▼54kg級 松永共広（静岡・日体大）、▼58kg級 関川博紀（新潟・三条工高教）、▼63kg級 栗尾直樹（宮城・ヤマキエンタープライズ）、▼69kg級 宮田和幸（福島・クリナップ）、▼76kg級 小幡邦彦（茨城・山梨学院大）、▼85kg級 鈴木豊（埼玉・自衛隊）、▼97kg級 川合達夫（群馬・板倉高教）、▼130kg級 鈴木賢一（千葉・読売千葉広告社）

《成年グレコローマン優勝者》▼54kg級 豊田雅俊（東京・警視庁）、▼58kg級 田中謙介（宮城・ヤマキエンタープライズ）、▼63kg級 笹本睦（神奈川・総合警備保障）、▼69kg級 佐野裕樹（香川・日体大）、▼76kg級 斉藤柔（埼玉・自衛隊）、▼85kg級 井田敏徳（兵庫・市芦屋高教）、▼97kg級 谷口周平（埼玉・自衛隊）、▼130kg級 浜上稔（宮崎・宮崎農高教）

《少年フリースタイル優勝者》▼50kg級 湯元進一（和歌山・和歌山工）、▼54kg級 足立孝司（岐阜・岐阜工）、▼58kg級 岩井康輔（京都・網野）、▼63kg級 鈴木崇之（京都・立命館宇治）、▼69kg級 松井翔（京都・立命館宇治高）、▼76kg級 松本真也（京都・網野）、▼85kg級 磯川孝生（大分・日本文理大付）、▼97kg級 米山祥嗣（群馬・館林）、▼130kg級 高尾誠（熊本・玉名工）

《少年グレコローマン優勝者》▼50kg級 長谷川恒平（静岡・焼津中央）、▼54kg級 西尾直之（大阪・大阪市立）、▼58kg級 三谷裕之（鹿児島・鹿屋中央）、▼63kg級 江藤紀友（福岡・三井）、▼69kg級 神野伸二（愛媛・北条）、▼76kg級 有働真也（愛媛・玉名工）、▼85kg級 石沢幸佑（新潟・北越）、▼97kg級 子本真照（熊本・玉名工）、▼130kg級 後藤志勝（福島・田島）

◇全国社会人オープン選手権（11月3～4日、東京・スポーツ会館）

《男子フリースタイル優勝者》▼54kg級 角地山豊（宮越工芸）、▼58kg級 千代延寿（青山ク）、▼63kg級 井上謙二（自衛隊）、▼69kg級 本名栄仁（新潟・新潟北高教）、▼76kg級 柴田寛（徳山大レスリング部）、▼85kg級 森陽保（明治大倶楽部）、▼97kg級 土居克也（愛媛県協会）、▼130kg級 鴻巣晶俊（だっぺク）

《男子グレコローマン優勝者》▼54kg級 杉山文夫（札幌ク）▼58kg級 安原隆（自衛隊）、▼63kg級 富谷光雄（自衛隊）、▼69kg級 西田哲人（自衛隊）、▼76kg級 堀口昭彦（自衛隊）、▼85kg級 小向忍（自衛隊）、▼97kg級 谷口周平（自衛隊）、▼130kg級 前川豪（セコム上信越）

◇全日本大学選手権（11月10～11日、高知・宿毛高）

《優勝者》▼54kg級 松永共広（日体大）、▼58kg級 松尾大士（日体大）、▼63kg級 池松和彦（日体大）、▼69kg級 池田孝之（日体大）、▼76kg級 小幡邦彦（山梨学院大）、▼85kg級 菅太一（日大）、▼97kg級 藤田尚志（山梨学院大）、▼130kg級 沢田直樹（拓大）

《大学対抗得点》[1] 日体大（7年ぶり17度目）、[2] 山梨学院大、[3] 拓大

◇西日本学生秋季リーグ戦（11月24～25日、大阪・大阪府立体育会館第2体育館）

《順位》[1] 立命館大（3季ぶり3度目）、[2] 同志社大、[3] 徳山大、[4] 福岡大、[5] 東亜大、[6] 桃山学院大、[7] 天理大、[8] 近大

◇全日本大学グレコローマン選手権（12月1～2日、東京・駒沢体育館）

《優勝者》▼54kg級 森岡則晴（拓大）、▼58kg級 伊藤光（日体大）、▼63kg級 柳川育広（日体大）、▼69kg級 小路伸亮（拓大）、▼76kg級 大久保潤一（青山学院大）、▼85kg級 小幡邦彦（山梨学院大）、▼97kg級 藤田尚志（山梨学院大）、▼130kg級 伏平学（拓大）

《大学対抗得点》[1] 拓大（2年連続2度目）、[2] 日体大、[3] 山梨学院大

◇東日本学生秋季新人戦（12月8～9日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼54kg級 久古敏章（日大）、▼58kg級 中橋裕樹（東洋大）、▼63kg級 大島充晴（国士大）、▼69kg級 鈴木伸太郎（早大）、▼76kg級 高橋龍太（拓大）、▼85kg級 田守竹夫（山梨学院大）、▼97kg級 田中章人（専大）、▼130kg級 沢田直樹（拓大）

《男子グレコローマン優勝者》▼54kg級 池田利明（拓大）、▼58kg級 庄司優亮（拓大）、▼63kg級 森宣行（国士大）、▼69kg級 中井伸武（拓大）、▼76kg級 子川亮介（日体大）、▼85kg級 相沢純（中大）、▼97kg級 前島信彦（拓大）、▼130kg級 西田耕一郎（日大）

◇全日本選手権（12月21～23日、東京・代々木競技場第2体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼54kg級 松永共広（日体大）、▼58kg級 平井進悟（総合警備保障）、▼63kg級 金渕清文（国士大助）、▼69kg級 宮田和幸（クリナップ）、▼76kg級 小幡邦彦（山梨学院大）、▼85kg級 川合達夫（群馬・板倉高教）、▼97kg級 中尾芳広（エス・ピー・ネットワーク）、▼130kg級 田中章仁（専大）

《男子グレコローマン優勝者》▼54kg級 村田知也（日野ク）、▼58kg級 笹本睦（総合警備保障）、▼63kg級 飯室雅規（自衛隊）、▼69kg級 永田克彦（新日本プロ職）、▼76kg級 菅太一（日大）、▼85kg級 松本慎吾（一宮運輸）、▼97kg級 森角裕介（日体大）、▼130kg級 鈴木克彰（警視庁）

《女子優勝者》▼46kg級 吉村祥子（TBC東京ビューティセンター）、▼51kg級 服部担子（中京女大）、▼56kg級 山本聖子（日大）、▼62kg級 岩間怜那（中京女大）、▼68kg級 斉藤紀江（ジャパンビバレッジ）、▼75kg級 浜口京子（浜口ジム）